私の発言

富士山麓に文化の花を咲かせるために ～劇場が果たす役割～

高齢者演劇集団チャレンジャー 原田一雄

高齢者演劇集団チャレンジャーは、2013年から16年まで4回の富士宮市公演を、富士宮市民文化会館大ホールで行ってきました。上演作品は木庭久美子作『ファッションショー』（13年）、門野晴子原作・杉浦久幸脚本『わがママわがババ奮斗記』（14年）、高橋いさを作『バンク バンク レッスン』（15年）、三島両市さらに中部地域からも参加し25人真船豊作『鼓（いたち）』（16年）です。

いずれも公益財団法人富士宮市振興公社との共催でした。富士宮市での公演は当初から願っていたので、劇団員にとって大きな喜びでした。入場者数も想定を超え、好評もいただきました。にもかかわらず、昨年5月の公演を最後に撤退を決めました。撤退するにあたって、バックアップしていただいたお客さまを前半分にする、集音マイクを使うなど）をが、その差は歴然でした。

〈市民のニーズに応える劇場とは？〉

高齢者演劇集団チャレンジャーは、08年に富士市で誕生しました。団員は富士市・富士宮市を中心に沼津、三島両市さらに中部地域からも参加し25人（現在は16人）、平均年齢65歳（現在は70歳）。年1回の本公演（ロゼシアター小ホール・2007年は舞台も狭く客席数1200）と小ホールがありますが、小ホールは舞台も狭く客席も平面で演劇の上演には不向きで、講演会なども同様です。市民が自力で大ホールを使うような大規模な発表をするのは極めて稀（まれ）です。劇場が地域の文化創造、ひいては地域社会の活性化に果たす役割は計り知れないものがあります。文化都富士宮市民文化会館の小ホールで自主公演を行ってきましたが、昨年から生涯学習センターロゼシアター小ホールに会場を移しました。舞台が狭いのと見にくさから、床に舞台と客席を作っての上演でした。あまりの大変流の脇に終（つい）の棲家（すみか）をかまえました。ここにきて遠くて恐縮ですが、富士宮市民の皆様のご来場を心からお待ちしています。

（富士宮市大中里）

富士山麓に文化の花を咲かせるために ～劇場が果たす役割～

高齢者演劇集団チャレンジャー 原田一雄

高齢者演劇集団チャレンジャーは、2013年から16年まで4回の富士宮市公演を、富士宮市民文化会館大ホールで行ってきました。上演作品は木庭久美子作『ファッションショー』（13年）、門野晴子原作・杉浦久幸脚本『わがママわがババ奮斗記』（14年）、高橋いさを作『バンク バンク レッスン』（15年）、三島両市さらに中部地域からも参加し25人真船豊作『鼓（いたち）』（16年）です。

いずれも公益財団法人富士宮市振興公社との共催でした。富士宮市での公演は当初から願っていたので、劇団員にとって大きな喜びでした。入場者数も想定を超え、好評もいただきました。にもかかわらず、昨年5月の公演を最後に撤退を決めました。撤退するにあたって、バックアップしていただいたお客さまを前半分にする、集音マイクを使うなど）をが、その差は歴然でした。

〈市民のニーズに応える劇場とは？〉

高齢者演劇集団チャレンジャーは、08年に富士市で誕生しました。団員は富士市・富士宮市を中心に沼津、三島両市さらに中部地域からも参加し25人（現在は16人）、平均年齢65歳（現在は70歳）。年1回の本公演（ロゼシアター小ホール・2007年は舞台も狭く客席数1200）と小ホールがありますが、小ホールは舞台も狭く客席も平面で演劇の上演には不向きで、講演会なども同様です。市民が自力で大ホールを使うような大規模な発表をするのは極めて稀（まれ）です。劇場が地域の文化創造、ひいては地域社会の活性化に果たす役割は計り知れないものがあります。文化都富士宮市民文化会館の小ホールで自主公演を行ってきましたが、昨年から生涯学習センターロゼシアター小ホールに会場を移しました。舞台が狭いのと見にくさから、床に舞台と客席を作っての上演でした。あまりの大変流の脇に終（つい）の棲家（すみか）をかまえました。ここにきて遠くて恐縮ですが、富士宮市民の皆様のご来場を心からお待ちしています。

（富士宮市大中里）

富士市のロゼシアターには小ホール（座席数324）、中ホール（700）、大ホール（1600）があります。舞台表現でも同様です。市民が自前後の部員が活動しています。人材は育ちつつあります。しかし、劇場は都市の象徴であり市民生活の核となるもので華を咲かせるためにはぜひ必要なことです。

チャレンジャーの話に戻します。富士宮市から撤退はしましたが、ロゼシアター小ホールで例年通り公演します。小劇場の緊密な空間でお互いの息遣いを感じながら、笑ってときを過ごしていただきたいと思います。

富士山麓に文化の花を咲かせるために ～劇場が果たす役割～

高齢者演劇集団チャレンジャー 原田一雄

高齢者演劇集団チャレンジャーは、2013年から16年まで4回の富士宮市公演を、富士宮市民文化会館大ホールで行ってきました。上演作品は木庭久美子作『ファッションショー』（13年）、門野晴子原作・杉浦久幸脚本『わがママわがババ奮斗記』（14年）、高橋いさを作『バンク バンク レッスン』（15年）、三島両市さらに中部地域からも参加し25人真船豊作『鼓（いたち）』（16年）です。

いずれも公益財団法人富士宮市振興公社との共催でした。富士宮市での公演は当初から願っていたので、劇団員にとって大きな喜びでした。入場者数も想定を超え、好評もいただきました。にもかかわらず、昨年5月の公演を最後に撤退を決めました。撤退するにあたって、バックアップしていただいたお客さまを前半分にする、集音マイクを使うなど）をが、その差は歴然でした。

〈市民のニーズに応える劇場とは？〉

高齢者演劇集団チャレンジャーは、08年に富士市で誕生しました。団員は富士市・富士宮市を中心に沼津、三島両市さらに中部地域からも参加し25人（現在は16人）、平均年齢65歳（現在は70歳）。年1回の本公演（ロゼシアター小ホール・2007年は舞台も狭く客席数1200）と小ホールがありますが、小ホールは舞台も狭く客席も平面で演劇の上演には不向きで、講演会なども同様です。市民が自力で大ホールを使うような大規模な発表をするのは極めて稀（まれ）です。劇場が地域の文化創造、ひいては地域社会の活性化に果たす役割は計り知れないものがあります。文化都富士宮市民文化会館の小ホールで自主公演を行ってきましたが、昨年から生涯学習センターロゼシアター小ホールに会場を移しました。舞台が狭いのと見にくさから、床に舞台と客席を作っての上演でした。あまりの大変流の脇に終（つい）の棲家（すみか）をかまえました。ここにきて遠くて恐縮ですが、富士宮市民の皆様のご来場を心からお待ちしています。

（富士宮市大中里）

富士市のロゼシアターには小ホール（座席数324）、中ホール（700）、大ホール（1600）があります。舞台表現でも